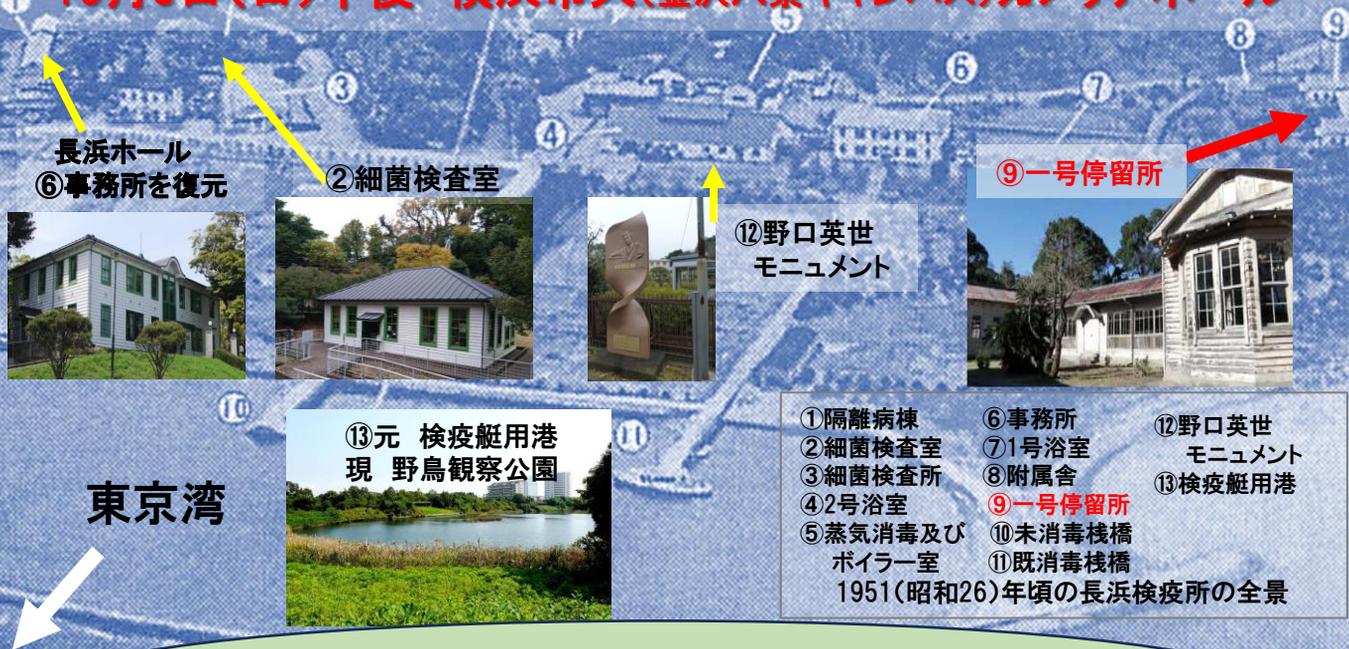


市民シンポジウム

どうする・どうなる？ 国民が誇れる検疫遺産！

検疫資料館(旧一号停留所)の保存・利活用をめぐる

10月8日(日)午後 横浜市大(金沢八景キャンパス)カメラホール



⑥長浜ホール
事務所を復元



②細菌検査室



⑫野口英世
モニュメント



⑨一号停留所



⑬元 検疫艇用港
現 野鳥観察公園



- | | | |
|------------------|--------|-----------------|
| ①隔離病棟 | ⑥事務所 | ⑫野口英世
モニュメント |
| ②細菌検査室 | ⑦1号浴室 | ⑬検疫艇用港 |
| ③細菌検査所 | ⑧附属舎 | |
| ④2号浴室 | ⑨一号停留所 | |
| ⑤蒸気消毒及び
ボイラー室 | ⑩未消毒棧橋 | |
| | ⑪既消毒棧橋 | |

1951(昭和26)年頃の長浜検疫所の全景

我が国の検疫史を、唯一今に伝える横浜市/金沢区/長浜の施設群 (カラー写真)

主旨：横浜市/金沢区/長浜にある明治期の検疫資料館(旧一号停留所)は、国の登録有形文化財となり、我が国近代化のシンボルですが、当地の業務移転にともない、解体・移築の運命にあります。既に国は解体・組立工事の入札も実施しましたが、受け入れ側の横浜市は、文化財として、また日本の検疫史を今に伝えるものとして、市民だけでなく国民にも誇れ・利活用される施設として、どのように維持していくのか詳細は公表していません。そのために、保存利活用に関する基調講演のほか、これまでの経緯・現状について紹介し、保存・利活用・施設名称などについて市民の皆様のお意見もお聞きし、国と横浜市にも提案するシンポジウムを開催します。なお本シンポジウムは、保存署名活動開始のシンポジウムを2020年秋に開催して以来ですが、現地保存に署名いただいた多くの方々に感謝申し上げます、署名者の願いがどこまで実現されるか、責任感を持って見守り、提言したいと思います。

基調講演(事例紹介)：昌子住江氏(写真右上)

(NPO法人アクションおっぱま理事長、元関東学院大学教授/工博)

米山淳一氏(写真右下)

(公益社団法人横浜歴史資産調査会常務理事/事務局長、
元財団法人日本ナショナルトラスト事務局長)

現状紹介：田中常義氏(NPO法人野口英世よこはま顕彰会理事長)

横浜市等関係者(依頼中)

開催日時：2023年10月8日(日) 13:30~16:30(開場13:00)

開催場所：横浜市大/カメラホール(最大300人 新型コロナの状況によつては制限する場合があります) **リモート参加も可**

京浜急行・シーサイドライン 金沢八景駅 徒歩5分(裏面に地図)

参加要領：無料 資料準備のため事前申込みをお願いします(裏面参照)



主催：NPO法人野口英世よこはま顕彰会

共催：NPO法人横浜金沢文化協会

後援：横浜市金沢区(予定)

協賛：NPO法人らしく並木